

中学校1年・美術 「紹介します、〇〇中の気になる情景」

使用したソフトや機能：カメラ機能



〈ICT活用のポイント〉

- ①カメラ機能を活用することで、造形的な視点を意識させることができる。
- ②カメラ機能を活用することで、形が変化しやすい作品も画像として記録することができる。

1 題材の目標

学校の中で見つけた「気になる場所」のイメージを基に主題を生み出し、形や色彩、構図などを工夫して表すとともに、自他の表現の意図や創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げる。

2 題材の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
・形や色彩、全体の様子などに着目し、そこから生じるイメージを捉え、絵の具の使い方を工夫して表している。	・身近な「気になる場所」のイメージを基に主題を生み出し、形や色彩、構図などを考え、表現の構想を練っている。 ・身近な場所のよさや美しさを感じ取り、表現の意図や創造的な工夫などについて考えるなどして、見方や感じ方を広げている。	・「気になる場所」を見つけ、その特徴をとらえて表すことに関心をもち、主体的に表現及び鑑賞の学習活動に取り組もうとしている。

3 題材について



本題材は、教科書の「なぜか気になる情景」をもとに、学校内で気になった場所や風景を見つけ、自分の思いを込めた風景画を制作する実践である。

1年生にとっての初めての風景画の制作になるので、基礎的な技能を学ぶ機会となると考えている。4月から生活している学校の中で気になる場所を選び、なぜその場所が目に留まったのか、なぜほかの人が選ばなかったその場所を自分は気になったのかを考え、「自分なりの見方」「自分だけの考え方」があることを知る機会にもなる。その中で、他の人とは違う自分の感性を知り、自分の見方や考え方を広げたり、自分の表したいイメージを形にするためにどのような表現ができるかを考えたりして、自分を表現・発信していく力を付けていくことを願っている。



4 1人1台端末を活用した時間の学習展開

※5時間目 「気になる場所を写真に収めてくる」活動

段階	主な学習活動	指導上の留意点
<p>導入 15分</p>	<p>○本時の目標を確認する。 ○風景画の構図の学習をする。 ・同じテーマで異なる構図の写真を見て、どのような印象を受けるかを考える。 「この写真からはどんな印象がする？」 「2枚を比べてどんな違いがある？」</p>	<p>・教科書や資料集で理論を学ぶだけでなく、生徒自身が実感できるようにする。 ・構図の違いによる感じ方の違いに着目させ、自分の絵の候補場所をどのように撮影するかイメージできるようにする。</p>
<p>展開 前段 20分</p>	<p>○校内の「気になる場所」の写真を撮影する。 ・15分間で校舎内を回り、あらかじめ候補として考えておいたいくつかの場所を撮影してくる。 ・自分の思いのこもった場所を選ぶ。 (初めて友達と話をした場所) (掃除を頑張っていて○○先生に褒められた場所)</p>	<p>・約束事を確認する。 ①足音や話し声を出さず、静かにする。 ②タブレットは落とさないようしっかり持ち、撮影の際も両手で持つ。 ③友達と同じ場所にはしない。被った場合には構図を変えるなど、自分なりの工夫をする。 ④時間を確認し、15分以内に戻ってくる。</p>
<p>展開 後段 10分</p>	<p>○写真をクラスルームに提出する。 ・撮ってきた写真から、一番いいと思う写真を選び、それ以外は削除する。自分の思いがこもっている場所で、その気持ちを表すような構図の写真を選ぶ。 ・クラスルームに出されている課題のスライドに、写真を貼り付ける。 ・自分の出席番号のスライドに、「クラス・番号・氏名」を入力する。 ・写真を挿入し、大きさを調整する。</p> 	<p>・同じ場所でも何パターンか撮ってくるので、一番良いと感じる写真を選び、その写真の何が良かったかを考えることができるようにする。構図を意識して選ぶようにする。 ・スライドに貼り付ける際、他の生徒のページは開かないようにすること、編集はしないことを確認する。</p> 
<p>終末 5分</p>	<p>○本時の学習の振り返りをする。</p>	<p>・次回は今回感じたイメージを色やタッチを使って表現していくことを伝える。</p>

5 ICTの効果的な活用について

生徒が1人1台端末を持って活動することで、一人一人の生徒の思いや意図が明確な写真を撮影することが可能になった。事前に学習した構図や造形的な視点を生かして、納得がいくまで撮り直したり、角度や視点を変えて何枚も撮影したりする中で、生徒の思いはより明確になっていった。端末を使用する前は、班ごとにカメラを持たせて撮影場所を回ったり、描きたい場所ごとにグループを組んで撮影させたりしていた。そのため、カメラが回ってくるのを待つ時間が生じたり、教員のカメラを借りることで緊張や遠慮があったりする中で、生徒が納得できる写真を撮影することは難しかった。

1人1台端末ではその問題を解決し、かつ大きな画面で見ながら撮影するやりやすさもあつたと感じている。また、撮影した写真の提出を学習支援ソフトで行うことで、写真を取り違えたり紛失したりすることがなかった。一人一人の生徒が時間をかけて撮影した写真を基に風景面に取り組んだので、主題が明確になり、構図や表現の工夫にもつながっていた。

